

長野県東御市

小中一貫教育について

海拔533m 日本一高い所に本庁舎が所在していると伺った。人口約30000人で高原都市という風景が印象的でした。

昭和31年から平成16年までの町村合併の経過の中で5小学校、2中学校という形になった。東部中学校区は4小学校から東部中学へ進学する小中一貫型教育、1小学校から北御牧中に進学する小中一貫教育と若干内容の異なる進学形態ではあったが目指す姿は共有していた。

取り組み始めて20年近くになり小中一貫教育が徐々に各校で回りはじめ成果が実感できるようになり職員の意識も変わってきた。今後もより良い一貫教育の姿を継続的に求めていくことが必要との説明があった。

横手市において小中一貫教育が必要かどうかは多方面からの検討が必要と感じたが、説明の中で出てきた不登校支援についての取り組み(子供サポートセンター)はよい事例だと感じた。

長野県茅野市

災害に強い支えあいのまちづくり条例について

国宝の土偶「縄文のビーナス」を所蔵する縄文王国。人口約55000人
急傾斜地、急勾配の河川、点在する集落など複雑な地形でこれまでも豪雨災害などに見舞われてきた。またフォッサマグナが市街地を通過し、併せて東海、南海トラフ地震が発生した場合の防災対策推進信地域に指定されている。広範囲に災害が発生した場合は市が果たせる役割は限られるとして地域コミュニティの在り方を重要視する。昨今地域コミュニティの衰退が懸念されるが、条例上にその重要性を掲げ活動の充実、取り組みに市ができる限りの支援をしなければならないとあり、普段からの地域のつながりを大切にしている。基本的なことであるが条例にしっかりと盛り込んだところに意義があると感じた。